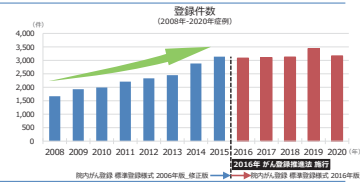


# がん登録における業務の効率化を目指した取組み ～登録システムと支援ツールの活用～

岡元 かおり<sup>1</sup> 松本 吉史<sup>1</sup> 金森 ひろ子<sup>1</sup> 青木 玲奈<sup>1</sup> 三河 ゆかり<sup>1</sup> 上田 英一郎<sup>1</sup> 後藤 昌弘<sup>2</sup> 鵜飼 昌彦<sup>2</sup>  
1大阪医科大学病院 診療情報管理室 2大阪医科大学病院 がん医療総合センター

## 目的

大阪医科大学病院では、2008年よりHos-CanR（以下、登録システム）へ登録を行っている。登録件数の増加に伴い、作業の効率化を目指すため、2019年症例よりCasefinder（以下、支援システム）を導入した。更なる改善に向けた取組みを報告する。



## 方法

### A 支援システムステータス項目

- 1) 登録待ち
  - 2) 判定対象
  - 3) 登録対象
  - 4) 登録対象外
  - 5) 登録終了
  - 6) 発生待機
  - 7) 登録保留
- 2)～6)の運用方法



### B 登録システム

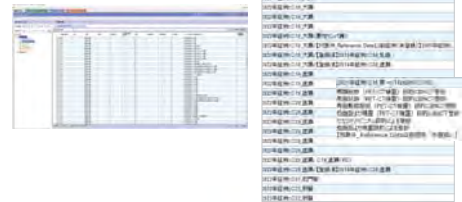
- ① 病理診断名・組織型テキストの入力方法
- ② 外字を含んだ氏名について
- ③ 紹介元・紹介先の医療機関テキスト欄の活用方法

## 結果

### A 支援システムステータス項目

- 1) 登録待ち
  - 2) 判定対象
  - 3) 登録対象
  - 4) 登録対象外
  - 5) 登録終了
  - 6) 発生待機
  - 7) 登録保留
- 判定待ち期間を4か月に設定
- 2)～6)では、登録対象のコメント欄を活用  
 > 診断年 および 部位を入力  
 > 患者毎に可視化した。
- 使用不可 (このステータスで保留しておく、後々のがん情報が追加されないという情報のため)

- > 登録状況を追加入力し、過去の登録との区別
- > 登録時に疑問点があった場合はコメント入力にて共有

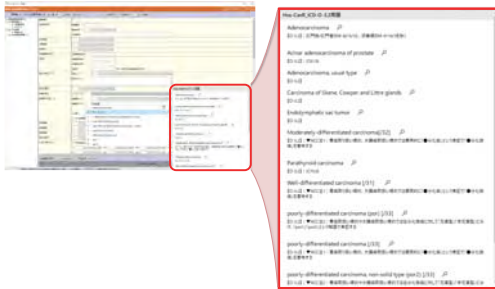


### B 登録システム

コメント欄を基に登録を開始

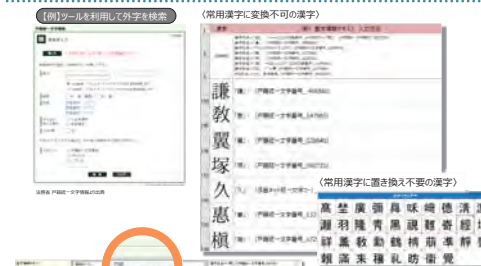


- ① IME辞書登録機能で形態コードを変換することにより、病理組織テキストが迅速に入力可能。



- ② 外字を含んだ氏名について 戸籍統一文字番号などを用いて一覧表を作成

- 登録時に各々の実務者にて外字を検索していたため時間を要していたが、外字を検索したものを一覧表に作成したことにより個々で検索していた時間が減少した。
- 入力方法の統一化ができた。

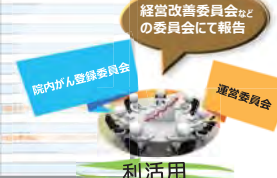


- ③ 紹介元・紹介先の医療機関について都道府県別の入力を開始

(入力例) 兵庫県内の医療機関からの紹介の場合  
 ●○○○病院 (28@兵庫)

(参考画面)

都道府県別にはできるが更に判別するには、コード化を用いた改善が必要。



## 考察

- システムやツールを活用することにより、入力における一定の統一性を持たすことが可能と考える。
- 過去の登録との判別がスムーズになり、経験年数に応じた振り分けも可能となったため効率があがった。
- 実務者に対する情報共有やフォローアップが迅速に行えるため、登録の質向上にも寄与できたと考える。

## 今後の取組み

紹介元・紹介先の医療機関に関し、都道府県別などのデータ収集や利活用が可能なコード化を目指したいと考える。